

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。今回は、2021年の夏に開催した異世代交流プログラム「みる旅」をご紹介します。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we report on "Miru-tabi," a cross-generational exchange program held in summer 2021.

クリエイティブ・エイジング

芸術と科学に出会い、 過去と未来へ旅する3日間

Encountering Art and Science in Travels to Past and Future



みる旅バナー Miru-tabi banner

2021年7月に「みる旅 芸術と科学に出会い、過去と未来へ旅する3日間」を開催しました。シニアと高校生が、美術館で展覧会と映画を鑑賞し、とことん話し合いました。

In July 2021, "Miru-tabi, Encountering Art and Science in Travels to Past and Future" was held. Older adults and high-school students viewed an exhibition and movie at the Museum and actively discussed their experiences together.

「クリエイティブ・エイジング」とは？

What is "Creative Aging"?

誰もがクリエイティブに歳を重ねられる社会を目指して、2021年度よりシニア世代の方々を対象にした「クリエイティブ・エイジング」が始動しました。さまざまなアートに触れられる参加型の鑑賞会や異世代交流の機会など、多彩なプログラムを行っています。

Fiscal 2021 saw the launch of "Creative Aging," a program for older adults aimed at creating a society where anyone can age creatively. Various programs are offered, including participatory viewing to experience diverse artworks and opportunities for cross-generational exchange.

シニアと高校生が出会い、 よくみて、よく話し合った、 夏の「みる旅」とは？

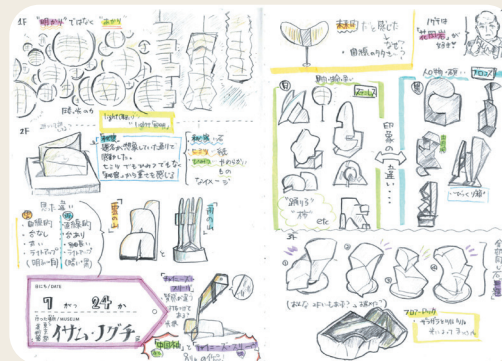
The summer "Miru-tabi" where seniors and high-school students gathered to look and talk. What was it?

長引く自粛生活で気持ちが落ち込み気味になるコロナ禍の夏休み、普段交わることが少ないシニアと高校生が当館に集まり、「展覧会」と「映画」の鑑賞を掛け合わせたスペシャル・プログラム「みる旅」を開催しました。シニアの方々からは「気持ちが若返った」、高校生からは「新しい学びや視点を発見できた」などの感想が寄せられ、世代を超えたグループでの鑑賞や交流を行う美術館プログラムに、新しい可能性を感じました。

「みる旅」は、当館の特別展「イサム・ノグチ 発見の道」の鑑賞から始まりました。やわらかい和紙で作られた照明彫刻「あかり」や、自然



本物の大理石に触れる高校生とシニアの参加者
A high-school student and an older adult touching actual marble



参加者 神武優麻さん(高校1年生)によるスケッチ
Sketch by participant KOHTAKE Yuma (a first year student at high school)

の生命力を形にとどめた石の作品で名高いイサム・ノグチの展覧会。参加者はまず展示室をゆっくり散歩して、ノグチの造形や空間の醍醐味を味わい、次に作品をみて感じたことを言葉やドローイングにしてノートに綴り、お互いの発見を共有しました。

次にイサム・ノグチが生きた時代と重なるストーリーの『映画 太陽の子』を鑑賞しました。この映画は、太平洋戦争末期に存在した「F研究」と呼ばれる日本の原爆開発を背景に、科学者たちの葛藤と、時代に翻弄されながらも全力で駆け抜けた若者たちの決意と揺れる思いを描いた、日米合作の作品です。参加者は111分の上映時間の中で、戦争を生きた登場人物の人生を追体験した後、シニアと高校生混合のグループに分かれて意見を交わしました。それぞれに気になったシーンを付箋に書き、それらを各シーンのスチール写真を時間軸で配置した10メートル超におよぶ映画のタイムラインに貼り、時系列でお互いの気づきを整理しました。

同じ映画や展覧会をみても、十人十色の「みる旅」があり、参加者は、よくみて、よく話し合うことで、作品から豊かな意味を紡ぎ出しました。

最終日には、制作者の思いや舞台裏の話を知ることができ、『映画 太陽の子』の黒崎博監督とプロ

デューサーのコウ・モリ氏を招き、「イサム・ノグチ 発見の道」を企画した中原淳行学芸員とのクロストークを行いました。「みる側」と「みせる側」が出会い、コミュニケーションが生まれ、3日間の「みる旅」の経験がさらに深まっていく時間を過ごしました。

シニアと高校生が作品をよく観察することから始め、世代を超えて交流し、壮大な「みる」という旅に出かけた濃密な3日間。今後もこのようなプログラムを通して、幅広い世代の市民が、美術館でクリエイティブな活動が楽しめる機会を増やしていきたいと考えています。

(東京都美術館 学芸員 藤岡勇人)

In July 2021, "Miru-tabi, Travels to Past and Present, Experiencing Art and Science" was held at Tokyo Metropolitan Art Museum with 63 older adults and high-school students taking part. During three days, they explored the exhibition "Isamu Noguchi: Ways of Discovery" and watched the movie *Gift of Fire* released in the summer of 2021. The movie concerns Japan's secret endeavor to build an atomic bomb during World War II. The participants—people of different generations and backgrounds—enjoyed seeing the movie and artworks and engaging in discussion. Their intergenerational dialogue, which unfolded mainly in the Museum's auditorium, was mediated by the Museum's *Tobira* art communicators. The participants' varied perspectives were subsequently recorded on Post-it notes and in sketchbooks, which filled the auditorium. We will continue to hold such cross-generational exchange programs giving everyone, including older adults, chances to visit the Museum and engage in creative activities.

(FUJIOKA Hayato, Assistant Curator)



『映画 太陽の子』のタイムラインに付箋で気づきを共有する参加者

Participants sharing impressions of *Gift of Fire* on Post-it notes

【開催概要】「みる旅 芸術と科学に出会い、過去と未来へ旅する3日間」／開催日 2021年7月23日～25日(7月18日にオリエンテーション実施)／参加人数 63名(内訳:65歳以上27名、高校生36名)／ファシリテーター 20名(とびラー)